

## 第 28 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【部会②】

# 開催記録

### 1 開催概要

- 日時：令和 5 年 3 月 1 日（水）10：00 ～ 12：00
- 場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川 ホール 5A
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・谷川 章雄氏（早稲田大学 人間科学学術院 教授）</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老川 慶喜氏（立教大学名誉教授）</li> <li>・小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー）</li> <li>・古関 潤一氏（東京大学 社会基盤学専攻 教授）</li> </ul>
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化庁文化財第二課 史跡部門</li> <li>・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課</li> <li>・港区街づくり支援部</li> <li>・東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課</li> <li>・東京都 建設局 道路建設部 鉄道関連事業課</li> <li>・東京都 交通局 建設工事部 計画改良課</li> <li>・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部</li> <li>・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 基盤整備計画部</li> <li>・鉄道博物館 学芸部</li> <li>・東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター</li> <li>・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門</li> <li>・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部</li> <li>・京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部 品川開発推進部</li> </ul>
事務局 京浜急行電鉄(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部</li> </ul>
サポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パシフィックコンサルタンツ株式会社</li> </ul>

■ 当日配布資料

部会②

- ・ 次第
- ・ 資料 1：第 27 回委員会（2/1）部会②議事録案
- ・ 資料 2：調査の進捗について
- ・ 資料 3：品川駅街区の文献調査報告
- ・ 資料 4：駅街区の地区計画と建築物の工事計画
- ・ その他：京急 web ページ案内

## 2 議事要旨

---

### 2.1 部会②

#### (1) 開会

- 第 28 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会の部会②を開会する。(事務局)

#### (2) 第 27 回委員会 (2/1) 部会②の議事録確認

- 本委員会終了までに指摘がなければ議事録を確定する。(委員長)

#### (3) 調査の進捗について

- 資料 2 について説明する。(港区)
- 南横仕切堤の南側土留と想定されるまでの調査に感謝する。構造は港区でまとめて報告していただきたい。(委員長)
- 水溜の存在自体は堆積状況から間違いないものとわかった。重要な成果である。試掘範囲内ではその法面が石垣や土留めが行われていなかったことがわかった。(委員長)
- 北横仕切堤と南横仕切堤の間に位置する山留設置箇所はボーリング調査の結果としてはなにも確認されなかったため工事着手を可としたということであるが、委員会としてもその判断を尊重したい。(委員長)

#### (4) 品川駅街区の文献調査報告 (土地の変遷) について

- 資料 3 について説明する。(事務局)
- 資料 2 のボーリング調査の結果を見ると水の流れは第 8 橋梁の方向に流れていることがわかる。(小野田委員)
- 資料 3-1 について私有地と書いてあるものは何か。(文化庁)  
← 12 月の部会②の資料で、私有地が誰のものであったか一覧で整理している。個人の所有である。特異なのは、一度払い下げられ、品川駅拡張に合わせてもう一度接収されているという経緯である。(事務局)
- 今後駅街区についてどういう進め方をするか、改めて関係者で集まり考えなければならぬ。(委員長)

#### (5) 駅街区の地区計画と建築物の工事計画について

- 資料 4 について説明する。(京急)

- 事業スケジュールに関する説明であったが、埋蔵文化財の実態を把握した上で保護措置を決めていく検討の進め方に変わりはない。(委員長)

## (6) その他

- 本委員会の部会②の資料・記録を掲示するホームページを作成したので紹介する。(事務局)

## (7) 閉会

### 3 議事録

---

#### 3.1 部会②

##### (1) 開会

- (事務局) ここからは事務局を交代し、部会②を進める。  
(事務局) 次第を説明する。  
(事務局) 進行を谷川委員長にお願いする。

##### (2) 第 27 回委員会 (2/1) 部会②の議事録確認

- (委員長) 前回の全体会の議事録について修正等の指摘はあるか。  
(委員長) 何か修正があれば本委員会が終了するまでに指摘していただきたい。  
なければこれで議事録を確定する。

##### (3) 調査の進捗について

- (港区) 資料 2 について説明する。  
(委員長) 南横仕切堤の南側の土留だと思われるものが、想定されるまで調査していただいたことに感謝する。構造は港区の方でまとめて報告していただきたい。水溜の部分は、存在自体は堆積状況から間違いないものと分かったことが重要な成果である。その法面での石垣や土留めなどは行われていなかったということが、少なくとも試掘の範囲内ではわかった。山留の部分は、ボーリングの状況を見て確認するということであった。北横仕切堤と南横仕切堤の間は、ボーリング調査の結果では何も確認されなかったため、山留の部分は工事着手可としたということである。検討委員会の方でもその判断を尊重したい。  
(委員長) 他になければ次に進める。

##### (4) 品川駅街区の文献調査報告 (土地の変遷) について

- (事務局) 資料 3 について説明する。  
(小野田委員) 2 ページの地図の赤線は何か。  
(事務局) これは南棟の連壁の先行山留の位置である。12 月の資料をそのまま転記しているため残っているものである。資料 2-4 のボーリング調査の結果の場所である。  
(小野田委員) ボーリング調査の結果を見ると水の流れは第 8 橋梁の方向に向かっていることがわかる。  
(文化庁) 資料 3-1 の図について、民有地と書いてあるのは何か。

- (事務局) 12月の部会②の資料で示している。民有地が誰のものであったかはその資料で整理している。個人の方の所有である。特異なのは、民有地として払い下げられた土地のうち、品川駅の拡張に合わせてもう一度官有地（鉄道用地）として接収されているということがある。
- (委員長) 今後駅街区についてどういう進め方とするか、改めて関係者で集まって考えなければならない。
- (委員長) 他になければ次に進める。

#### **(5) 駅街区の地区計画と建築物の工事計画について**

- (京急) 資料4について説明する。
- (委員長) スケジュールに関して理解するための説明であった。埋蔵文化財の実態を把握した上で保護措置を決めていくという検討の進め方に変わりはない。
- (委員長) 他になければ次に進める。

#### **(6) その他**

- (委員長) その他なにかあるか。
- (事務局) 調査・保存等検討委員会の京急の方の資料・記録を掲示するHPを作成したので紹介する。

#### **(7) 閉会**

- (委員長) これで終了する。

以上